

令和5年度 学力向上を図るための全体計画

にしみたか学園三鷹市立井口小学校

関係法規・市教委教育目標
豊かな心を持ち、心身ともに健康で、たくましく生きる「人間力」と「社会力」のある児童・生徒の育成

学校教育目標
心豊かでたくましい子どもに育てる
・輝く笑顔 ・やりぬく強さ ・進んで学ぶ井口の子

児童の実態、期待される生徒像
地域に根ざし、自らの生き方を主体的に切り拓き、創造性あふれ、国際性豊かな児童

学力向上に関わる学校経営方針
○学ぶ意欲・確かな学力の向上を意識した「楽しい授業」に向けた授業改善を行う。
○日々の生活にICTを活用し、自ら課題を発見し、計画を立てて学び解決していく力を育成する。
○放課後補習、地域未来塾の充実を図り、学習習慣の確立と基礎・基本の定着を図る。
○国、都、市の学習調査結果を分析し、家庭と課題を共有して指導に当たる。
○学年内教科担任制(中高学年)を行い、個々の専門性を高め、指導の効率を上げる。
○中学校への乗り入れ授業(理科・数学・英語)に、中高学年の教員が入り、指導力の向上を図る。

教科指導の重点
○「三鷹学びのスタンダード」「にしみたかスタンダード」で基礎・基本を徹底、課題解決学習等取り入れ「主体的・対話的で深い学び」を推進、確かな学力の定着を図る。
○一部教科担任制、乗り入れ授業の実施で、複数教員による個に応じた指導、専門性を生かした指導を展開する。

本校が目指す「確かな学力」

本校が目指す資質・能力
○「自ら考え、行動し、自ら未来を切り拓いていく子ども」
○「失敗を恐れず、積極的にチャレンジしていく子ども」
個人と社会のウェルビーイング、自らの幸せな人生とより良い社会の創造に向かって、主体的に「人間力」「社会力」を発揮できる子どもを育成する。
「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」をコミュニティ・スクール委員会、保護者、地域、関係機関との協働のもと社会に開かれた教育課程全体で育む。

道徳教育の指導の重点
○主体的に他者とともによりよく生きる心を育てるために、多面的・多角的に自己の生き方について「考え、議論する」道徳授業を推進する。
○学校・家庭・地域が連携をした道徳授業地区公開講座の形態を工夫し、道徳の公開授業と関連付けながら、三者が連携・協力できる内容にする。
○誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場を尊重し、助け合う心を育成する。

総合的な学習の時間で身に付ける「学力」の重点
○キャリア・アントレプレナーシップ教育を推進し、探究の過程が繰り返される学習内容を重視する。
○外部評価を取り入れ、学び方やものの考え方、自己の生き方を考えられることができる力を身に付ける。
○自ら課題を見付け解決する児童、自分の良さに気づき自信がもてる児童、自分の生き方を考える児童を育成する。
○地域人材の活用を図り、地域社会の一員として生きる上での社会性の実現を目指す。

特別活動の指導の重点
○相互のかわり合いを大切にした自主的・自治的な集団活動を通して、協力してよりよい学校生活を築こうとする望ましい実践的態度を育てる。
○小・小交流、小・中交流を工夫し、地域の方々との交流を深めながら、豊かな人間関係を育成する。
○目標達成に向けて計画的に取り組む能力や学びを振り返って新たな目標を立てたり将来の生き方を考えたりする能力を高める。

進路指導の重点
○人間関係形成能力、情報活用能力、意思決定能力、将来設計能力の視点を取り入れた指導を行い、自己理解や生き方について自ら考える力を育てる。
○キャリア・アントレプレナーシップ教育を推進し、職業に対する意識・関心を深め、主体的に進路を選択する能力を育成する。
○キャリアパスポートを活用し、児童が将来の生き方について考える機会を作る。

生活指導の重点
○年間3回のふれあいアンケート及び年間2回のQ-Uアンケート、教育相談強化月間の担任による年間2回の全員面接等により「いじめ」等の早期発見に努める。
○防災・防犯教育などの安全教育の一層の充実を図る。
○ダイバーシティの視点到立ち、すべての子どもたちが大切にされる学校づくりを目指す。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研修・研究の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<p>○朝学習・放課後補習・サマースクール等を活用し、学習習慣の確立と基礎・基本の定着</p> <p>○「個別最適な学び」の実現及び、学校ならではの「協働的な学び」の深化を目指したベスト・ミックスを追究し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫・改善</p> <p>○一部教科担任制と中学校教員による体育・外国語の乗り入れ授業</p>	<p>○小・中9年間を見通した「にしみたかカリキュラム」の実践</p> <p>○低学年15時間、中学年35時間の外国語活動の実施</p> <p>○放課後補習時間の確保</p> <p>○コミュニティ・スクール委員会、保護者、地域、関係機関との協働のもと、社会に開かれた教育課程の編成</p>	<p>○学園合同研究会の実施</p> <p>○「共に生きる力を育んでいく児童・生徒の育成」～小・中9年間の見直しをもった特別活動の推進を通して～</p> <p>○ICT活用授業の開発(機器活用・オンライン)</p> <p>○Q-U研修、検査の実施・活用</p>	<p>○評価の信頼性を高める多面的・多角的な指導と評価の一体化</p> <p>○児童による授業の振り返りの徹底</p> <p>○評価の流れの明確化(単元ごとの評価を学期、年間の評価につなげる)</p> <p>○道徳科における学習活動の評価の工夫</p>	<p>○学習サポート隊などの学習支援ボランティアの活用</p> <p>○地域人材の活用による教育活動の充実</p> <p>○地域未来塾の実施による基礎・基本の定着</p> <p>○家庭と連携した家庭学習の定着</p>
<p>【三鷹学びのスタンダード】の視点</p> <p>○じっくり考えたり調べたりできる課題設定や時間保証をする。</p> <p>○振り返りの時間を確保し、自身の気づきを大切にする。</p>		<p>【三鷹学びのスタンダード】の視点</p> <p>○児童・生徒が自ら課題を見付け、話し合い、協力して実践する自発的・自治的な活動を通して、自治的能力の育成を図る。</p> <p>○「発表の交流」「調べ学習」等でのICTの活用方法を工夫し授業力向上を図る。</p>		<p>【三鷹学びのスタンダード】の視点</p> <p>○「三鷹学びのスタンダード」「にしみたかスタンダード」での取組の周知</p> <p>○地域連携による体験学習の充実</p>